

## 令和元年の刑法犯統計資料

「日刊警察」令和 2 年 10 月 8 日号に掲載された警察庁発表資料のうち**重要窃盗犯**の記述の一部を紹介する。住宅を発生場所とする**侵入窃盗**では、**空き巣<sup>1)</sup>**、**忍込み<sup>2)</sup>**、**居空き<sup>3)</sup>**のいずれも一戸建住宅が多かった。侵入手段として多かったのは、**空き巣はガラス破り**、**忍込み**、**居空きは無締まり**だった。

<注>

- 1) 空き巣:留守時に侵入し、金品を盗むこと。
- 2) 忍込み:就寝時に侵入し、金品を盗むこと。
- 3) 居空き:いあき。在宅時に侵入し、金品を盗むこと。

## ■ 総 数

令和元年の**重要窃盗犯**の認知件数<sup>1)</sup>は 69,645 件、検挙件数<sup>2)</sup>は 42,722 件、検挙人員は 7,793 人、検挙率は<sup>3)</sup>61.3%であった。

**解決事件を除いた<sup>4)</sup>**検挙件数 41,775 件を特定の端緒(警察活動)別に見ると、**本件事件**(6,772 件)では、**防犯カメラ等の画像**が 1,297 件、**職務質問**が 799 件、その他が 3,926 件、該当なしが 750 件であった。また、**余罪事件**(35,003 件)では、**取調べ**が 33,170 件、**防犯カメラ等の画像**が 491 件、その他が 1,303 件、該当なしが 39 件であった。

<注>

- 1) 認知件数:警察において発生を認知した事件の件数をいう。
- 2) 検挙件数:警察において検挙した事件の件数をいい、特に断りのない限り、解決事件の件数を含む。
- 3) 検挙率:認知件数に対する検挙件数の割合を次のとおり計算して百分比で表したものをいう。  

$$\frac{\text{検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む)}}{\text{当該年の認知件数}} \times 100$$

当該年の認知件数

なお、検挙件数には、当該年の前年以前の認知事件の検挙が含まれることから、検挙率が 100%を超える場合がある。

- 4) 「解決事件を除いた」というのは、占有離脱物横領罪(自転車盗など)に該当する犯罪で、被害者が特定できないものなどを指すと思われる。

## ■ 侵入窃盗

認知件数は 57,808 件(うち住宅発生 33,924 件)、**検挙件数**は 37,083 件(同 20,521 件)、**検挙人員**は 6,106 人、**検挙率**は 64.1%(同 60.5%)であった。**住宅発生認知件数**の内訳は、**空き巣**が 19,543 件、**忍込み**が 7,852 件、**居空き**が 1,421 件、**その他**が 5,108 件であった。

これを**住宅形態別**にみると、**空き巣**は一戸建住宅が 13,302 件、4 階建以上共同住宅が 1,737 件、3 階建以下共同住宅が 4,504 件、**忍込み**は一戸建住宅が 6,888 件、4 階建以上共同住宅が 287 件、3 階建以下共同住宅が 677 件、**居空き**は一戸建住宅が 1,113 件、4 階建以上共同住宅が 110 件、3 階建以下共同住宅が 198 件であった。また、**その他**は、一戸建住宅が 4,071 件、4 階建以上共同住宅が 230 件、3 階建以下共同住宅が 807 件であった。いずれも一戸建住宅、3 階建以下共同住宅、4 階建以上共同住宅の順に多い。

主な被害者が判明している**空き巣認知件数**(19,213 件)を世帯構成別にみると、**単独世帯**が 7,383 件、**夫婦のみ世帯**が 3,503 件、**その他の世帯**が 8,327 件であった。また、**被害者の年齢層**では、単独世帯は 30～64 歳、65 歳以上、30 歳未満の順に多く、夫婦のみ世帯は、65 歳以上、65 歳未満の順に多かった。

住宅発生認知件数を**侵入手段別**にみると、**空き巣**は**ガラス破り**が 8,047 件で最も多く、以下、無締まりが 7,186 件、施錠開けが 1,461 件、ドア錠破りが 606 件、戸外しが 84 件などであった。**忍込み**では**無締まり**が 5,723 件、ガラス破りが 1,089 件、施錠開けが 237 件、ドア錠破りが 67 件、戸外しが 66 件の順に多かった。**居空き**では**無締まり**が 1,106 件で最も多く、ガラス破りが 139 件、施錠開けが 31 件、ドア錠破りが 8 件、戸外しが 6 件などであった。

**侵入口**をみると、**空き巣**はいずれの住宅も**窓**、表出入口、その他の出入口の順に多かった。**忍込み**では、**一戸建て住宅**は**窓**、その他の出入口、表出入口の順に多く、**4 階建て以上共同住宅・3 階建て以下共同住宅**では**表出入口**、**窓**、その他の出入口の順だった。**居空き**では、いずれの住宅も**表出入口**、**窓**、その他の出入口の順に多かった。

## ■ 自動車盗

**認知件数**は 7,143 件(うちキーあり 1,801 件、キーなし 5,342 件)、**検挙件数** 3,845 件(キーあり 213 件、キーなし 2,632 件)、**検挙人員**は 778 人(キーあり 528 人、キーなし 250 人)で、**検挙率**は 53.8%であった。

**鍵の状態・発生場所別**にみると、**キーあり**では、**駐車(輪)**が 673 件、**道路上**が 202 件、**住宅**が 385 件、**その他**が 1,097 件であった。**鍵の状態・自動車盗被害品数**をみると、**キーあり車両** 1,761 品では、**乗用自動車**が 987 品、**貨物自動車**が 632 品、**特殊自動車**が 123 品などで、**キーなし車両** 5,044 品では、**乗用自動車**が 3,581 品、**貨物自動車**が 1,032 品、**特殊自動車**が 389 品などであった。

**認知件数**を**被害額別**にみると 200 万円未満が 4,242 件、200 万円～300 万円未満が 747 件、300 万円以上が 1,769 件、**被害なし又は被害額認定困難**が 385 件であった。

**鍵の状態別**に**自動車の被害車両還付率**をみると、**キーあり**は 53.2%、**キーなし**は 16.5%であった。また、**検挙人員**を**年齢層別**にみると、40 歳台、20 歳台、30 歳台、50 歳台、14～19 歳、60 歳以上の順に多かった。

## ■ ひったくり

認知件数は1,553件(うち未遂127件)、検挙件数は950件、検挙人員は370人、検挙率は61.2%であった。認知件数のうち、女性被害は1,159件(74.7%)であった。

被害者の認知件数を年齢層別にみると、20歳台が311件で最も多く、以下、50歳台と70歳台が各219件、40歳台が211件、60歳台が196件、30歳台が184件、80歳以上が137件、19歳以下が75件の順に多かった。

認知件数を発生時間別にみると、22～24時、20～22時、0～2時、18～20時、16～18時の順に多かった。

逃走時に交通機関を用いた検挙件数は735件で、内訳はオートバイが412件、自転車が232件、自動車が86件(うち盗難車7件、自己所有44件、その他35件)であった。

検挙人員370人を年齢層別にみると、14～19歳が100人、30歳台が75人、20～24歳が73人、40歳台と50歳以上が各43人、20～24歳が36人の順で多かった。

## ■ すり

認知件数は3,141件、検挙件数は844件、検挙人員は539人、検挙率は26.9%であった。被害者の年齢が判明した認知件数3,140件のうち、男性被害は1,450件、女性被害は1,690件であった。

年齢層別内訳は、男性では20歳台が504件、30歳台が258件、50歳台が206件、19歳以下が102件、60歳台が94件、70歳以上が76件の順に多かった。女性では20歳台が668件、30歳台が282件、40歳台が194件、19歳以下が159件、50歳台が132件、70歳以上が151件、60歳台が104件の順に多かった。

検挙人員(539人)を年齢層別にみると、20歳台が152人、40歳台が93人、30歳台が84人、50歳台が61人、60歳台が56人、14～19歳が52人、70歳以上が41人の順に多かった。

以上